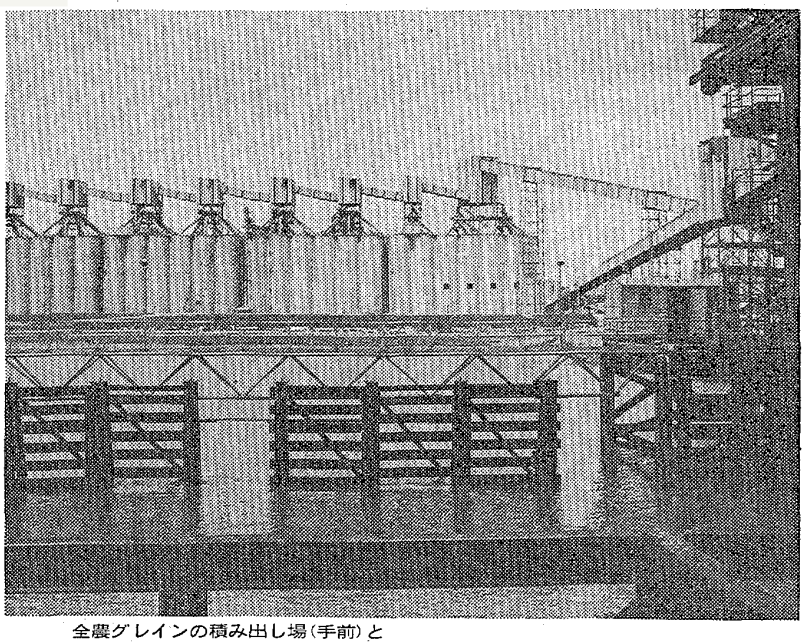
全農グレイン

初の船積み開始

エレベーター本操業

飼料安定供給担う

【ニューオーリンズ（ルイジアナ）十八日＝農協訪米団】米国南部のニューオーリンズ近郊に建設中だった全農グレインエレベーターがこのほど完成し、十八日（現地時間）コープグレインII号船が接岸し、初の船積みが始まった。全農グレインエレベーターは、日本の畜産農家に、飼料を安定的に供給することを使命に設置を急いでいたもの。ちょうど、この日（十八日）は、農産物の自由化阻止で訪米中の農業団体代表の飼料穀物班（団長・松井信勝富山県農協中央会会長）の訪問と重なり、この施設に、団員はもちろん、関係者から大きな期待が寄せられている。十月十二日には日本側から全農の石川正平会長や関係者、米国側からも多数参加し、盛大な落成式が開かれる予定となっている。



全農グレインの積み出し場（手前）と
巨大なビン（貯りゅう塔＝サイロ）＝米国ニューオーリンズ

ニューオーリンズから、バスで約一時間。十八日は真夏を思わせる炎天下。ミシシッピ河口から約二百六十キロほど上流にのぼると、あたり一面、穀物平原の中に、巨大なエレベーターが出現する。ミシシッピ河は、北から南にアメリカ大陸を縦断し、穀物を運搬する重要な要路。河岸にはいくつもの巨大なエレベーターが点在し、特に規模の大きいのは十一あり、カーギル、ドレーファス、コンチネンタルなどの穀物メジャー系のものが目立つ。

世界の穀物貿易はこれら穀物メジャー、それに日本の商社などが握っているが、全農が自力で配合飼料の原料を直接輸入し、配合飼料の広域供給体制を整備するため、米国の穀物貿易の拠点、ニューオーリンズに全農グレインを設立した。

施設は八十九本のビン（貯りゅう塔）を持ち、保管能力は約十万五千トン。これを年間六十五回転（月五回転）すると、同基地から船積みされる穀物は六百五十万トンの能力となる。全農の中期五か年計画では年間約一千万トンの配合飼料生産目標を立てており、これに必要な原料穀物は約六百万トン。全農グレインは国内での飼料供給に必要な原料確保を超える能力と態勢をもったことになる。

全農グレインはミシシッピ河でも、もっとも便利な地に位置し、水深二十㍍で五万トン級の本船が入れる。これ以上、上流は水深が浅く、ハシケしか通らなくなり、効果も半減する。

横矢乾総団長（和歌山県穀協中央会会長）、松井団長一行は、宮崎賞全農グレイン会長（全農副会長、群馬県穀協連会長）、ビックラー同社長の案内で、事務所から百㍍離れたところにある、長さ三百六十㍍におよぶ桟橋も見て回った。

とにかく大きい。千三百トンの二そうのハシケに積み込まれたトウモロコシは、二つのバージ荷揚げ機でビンに搬入される。この反対側にコープグレインII号が、桟橋いっぱいに巨身を浮かべている。四つの船積み機でトウモロコシが次々積み込まれる。この荷役作業はわが国では二日かかるが、ここでは一日半ですむ。

飼料の安定供給へ、全農グレインは本格的に動き出した。今後、日本の穀物輸入の流れにも大きな影響を与えるだろう。

（飼料穀物班・中岡義悳）

（1982年9月21日付、日本農業新聞）